

秋はアパートの窓に

(七卷) (六六米)

原作脚色並監督者 帝キネ 現代映畫
撮影者 川口松太郎
塚越成治

主要役割

修吉	中野英治
眞智子	久米順子
北原	大原美子
アパートの同居人	上代吉
新聞記者	森天龍
同	伊達龍一
同	原城
同	岬洋介
同	東條凡
同	小杉映
同	小川秀磨
同	日の本一
同	暴力團

(略筋)あるアパートメントの階上に隣り合つて住んでゐる戀人同志、修吉と眞智子、修吉は脚場の背景描きであつたが、劇場の支配人は修吉が帝展に出品するために熱心に製作してゐることを知つて、もし修吉の繪が入選すれば、自分が買ひさつてやうさ彼に約束した。眞智子は彼女の働く百貨店を解雇された。その翌日、百貨店の重役が彼女を訪れて彼女を女秘書官として迎へ、三百圓の手當を差し上げやうと云ふ野心満々の話、眞智子はきつぱりこれを斷つた。修吉はやつと畫を描き上げた、帝展へ持込んだ。ところが、ながい間の部屋代不拂ひで、彼女がアパートを追ひ出された。しかるに、數日後十數名の新聞記者は帝展特選になつた作者修吉を探し廻つたことであつた。

秋はアパートの窓に——この洒落た題名からは、ひびく抒情的なものが想像されるが、本質はロイド映畫の、キートン映畫の、モンティ・パンクス映畫の、或ひはめりけん二巻物喜劇のギャグを換骨脱胎して、一寸さの云ひたい位小ひつぽいなストーリーのなかにそれを氾濫せしめてゐるのである。だから、ギャグを引いたらこの映畫からなにか残るさ云ひたいのである。しかし、別の観方をすれば貧乏講家が帝展に當選するさ云ふ簡単な樂天的内容のストーリーをギャグの氾濫を以て修理してゐる點に、川口松太郎の達者さを窺ふ可きかも知れない。しかし、川口松太郎——この處女監督者にして事實は數を以て誇る何干本監督者の如き達者さと熱情の缺如さを示してゐる。これは嘆く可きではないか! 又、作者に長きセンナメンタリズムがあつたなら、この題材を豊に潤して好い成果を見ただであらうに——

只ひとつ稱揚す可きものは、この作者の俳優指導あるばかり。そして俳優では中野英治が一番の出来。中野英治主演映畫、これがこの映畫の大きな吸引力であらう。

(十一月二十一日 常盤座)